

三十九 川村秀蔵さん

大東亜戦争のとき、傷疾軍人の再起奉公のため速記の講習会を開かれるようにと陸軍省に申し出て、昭和十四年四月、第三陸軍病院で速記の講習会が開かれました。そのとき受講者の中に川村秀蔵さんがおられたのでした。非常に誠実な、熱心な人で一番よく出来る人でした。文章も上手、文字も立派でとても感心していたので、講習会が終わった後ですぐ速記学校の教師になっていただいたのでした。ところが学校の者が皆嫌うのです。折角来ていただいたのに皆嫌うのです。あるとき電車の中で川村さんに会ったときです。私は忘れていたのですが、そのとき川村さんが学校を辞めたいといったのに対して、私が、「私を信用して下さい」と返事したらしく、そのため川村さんは気を取り直して続けて勤めていたということを後で聞いたことがあったのです。学校に来ていただいていたから一カ月ぐらいいたところ、ある日学校で何かの会

